

緑の回廊と風の道の知恵

アル・ゴアの映画「不都合な真実」

「このままでいけば北極はあと半世紀で消滅する・・・台風災害に奇病の発生、種の絶滅など、温暖化を遠因として随所で地球が破たんをきたしている・・・」。ゴアのユーモラスな語り口で伝えられる地球の現状は、極めてショッキングで恐ろしいものだった。温暖化による近い将来の北極の消滅、確実に進む生態系の崩壊。地球が危機にひんしているのはもはや疑いようもない事実だ。残された時間はわずかしかない。ゴアの言うとおりに、未来のために今必要なのは<地球人>としての意識をもって、個人が「自分の出来ること」を始めることだ。

<地球人>というテーマに対し、私は日本人の内に潜む自然による感性に大きな可能性を感じる。

温暖な気候と豊かな四季の変化の中で、島国日本の人々は自然を尊ぶ、繊細できめ細かい生活文化を築き上げた。その本質を一言で言うならば、自然との共生である。自然対人工という図式の中で構成された西欧文化とは、ある意味で対極にある思想と言えるだろう。

このすぐれた民族的感性を、戦後日本は経済発展と引き換えに、過去に置き去りにしてしまったが、今こそ、私たち日本人が、自身の足元を見詰め直し、勇気と誇りを持って、世界にメッセージを発信するときだ。

私たちは、これからの日本を考える前に、まずこれからの地球を考えねばならない。その上で、自分の手の届く範囲から、行動を始める。大切なのは常に自分に何が出来るかを考えていくこと。一人ひとりのそのささやかな時間の積み重ねが、新しい日本人と日本を創っていく。

緑の回廊と風の道の知恵 毎日新聞 安藤忠雄